

教科名	発行者	教科書名
道 徳	光村図書出版	道徳 きみがいちばんひかるとき

上記発行者の教科書を選定した理由

- (1) 生徒や学級の実態を大切にしながら、ねらいとする道徳的価値にかかわり、本時考えさせたいことは何か、どのような指導方法、アプローチが効果的か、道徳科の目標を実現するため、教科書をもとに”教師が生徒と共に主体的に授業づくりができるか”という視点を最も重要視した。その点において、自分とのかかわりで考えを深め、広げていく観点としての「つなげよう」、多面的・多角的に考える観点としての「見方を変えて」を活用しながら授業づくりができる、上記発行者の教科書を選定した。
- (2) 「私の気づき」などの生徒が自ら「考えをもつ」ことへの配慮や工夫、それをもとに「友と意見を交流する」ことを学習の中心に据え、教材の読み取りのみに偏ることなく、発達段階に合わせて道徳的諸価値の自覚を深められる多様な教材（言語活動を重視した教材や漫画で見せる教材など）で構成されている。
- (3) 小中の連携の視点において、補助教材として小学校の定番教材を掲載している。中学生へと成長した今の自分の考えを改めて語り合うことで、生徒たちは再び考え直し、深い学びへとつなげていくことができる。
- (4) 各巻最終ページには内容項目、現代的な課題等とのかかわり、他教科・領域とのかかわりが一覧となっているため、教材配列を変更したり、差し替えを行うことができるように配慮されている。
- (5) 見やすいさし絵や写真、目にやさしい色づかいの用紙が使われ、生徒が集中して道徳の学習に取り組めるように配慮されている。

I 調査表 中学校 [道徳]

選定基準	観 点	出版社							
		東書	学図	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日教
1 教科の目標からの配慮	(1) 教科の目標を達成するために必要な内容が的確に盛り込まれているか。	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 (本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真図表、配色、コントラスト等)	(1) 内容、程度が生徒の発達の段階に応ずるよう配慮がなされているか。	◎	○	○	◎	○	○	○	◎
	(2) 関心意欲を喚起し、道徳的価値の追求に結び付く工夫がなされているか。	○	◎	◎	◎	○	○	○	○
	(3) 道徳的価値の理解を自分との関わりで深め、主体的に学習できるような工夫がなされているか。	○	○	○	◎	○	△	○	○
	(4) 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を通して、多面的・多角的に考えることができるよう配慮がなされているか。	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎
	(5) 文字の大きさ、文字数、レイアウト等は生徒の発達段階に応じて配慮がなされているか。	◎	○	◎	○	◎	○	○	○
	(6) さし絵、写真、配色、コントラスト等が鮮明でわかりやすく、問題がとらえやすくなるよう配慮がなされているか。	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い (「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価)	(1) 生徒の発達の段階に即して、多様な教材が適切に配列されているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	(2) 地域や生徒の実態に応じて各学校で創意工夫して適切な指導計画が作成できるよう配慮がなされているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
	(3) 現代的な課題など物事を多面的・多角的に考えるための配慮がなされているか。	◎	△	△	◎	◎	○	○	○
	(4) さし絵、写真等の扱いが学習指導に生かさせるものになっているか。	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
	(5) 学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握できるよう工夫されているか。	○	○	△	○	◎	△	◎	△
4 全体的な特色	(1) 採択基準1～3の観点及び体裁を含めた全体的な特色	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○

II 適当と認めた理由 中学校 [道徳]

採択基準	適当と認めた理由	
1 教科の目標からの配慮	(1)	<p>文部科学省より指導方法の工夫として、登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた授業づくりが示されている。生徒や学級の実態を大切にしながら、ねらいとする道徳的価値にかかわり、本時考えさせたいことは何か、どのような指導方法、アプローチが効果的か、道徳科の目標を実現するために、教科書をもとに教師が主体的に授業づくりができるかという視点で比較をした。自分とのかかわりで考える、多面的・多角的に考える観点が複数示されている。</p>
<p>2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性</p> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p>	(1)	<p>(1)発問について ①教材のねらいにかかわる発問、②道徳的価値にかかわる中心的な発問、③自分とのかかわりで考える発問などで構成されている。また、意見交流を促す発問や、話し合い活動を設けるなど、この一時間で生徒がねらいとする道徳的価値について、友との交流を通して自らの考えを深めたり、広げたりできるように工夫されている。</p>
	(2)	<p>(2)「考え、議論する道徳」に向けて 「考える道徳」、「議論する道徳」が学習活動の中に位置付くように、「学びに向かうために」など発問を工夫したり、付録として巻末にホワイトボード用紙や「心情円」をつけるなど、自分の思いを表現したり、多様な友だちの意見を書き込んだりしながら、意見交流ができるように工夫されている。</p>
	(3)	<p>(3)内容理解への配慮(視覚支援) 生徒の興味関心を高めたり、内容理解をサポートするさし絵や写真、脚注や振り仮名が豊富に設けられ、どの生徒にとっても読みやすく、内容を理解しやすくなるような配慮がされている。 ※必要以上に写真やイラストが多いと、生徒の中には集中できない生徒もいることも配慮したい。</p>
	(4)	<p>(4)内容理解への配慮(合理的配慮の視点) 冒頭にさし絵や写真、漫画の一部を掲載するなど親しみやすく、主題に関しては問いかけの言葉があり、問題を見つけたり、把握できたりするように工夫されている。また、長文が苦手だったり、登場人物を整理できなかったりする生徒への配慮として資料のタイトル下に、登場人物を明示するなどの工夫をしている。</p>
	(5)	<p>(5)小中連携の視点 小学校とのつながりを意識し、系統的・発展的な学習になるよう各学年にテーマを設定し、学校での諸活動に応じた教材が考えられている。絵本や漫画形式の教材、データや複数の資料から考える教材など、多様な教材を通して生徒が自ら考えられるように配慮されている。また、補助教材として、小学校の定番教材を掲載し、自らの成長と共に考え直しができるような機会を設けている。</p>
	(6)	<p>(6)評価について 記述欄や別冊ノートには、自らの考えや友達の発言を記入できるほか、自己の生き方を見つめる記入欄を設けたり、ノートをもとに家庭との連携も図れたりするような工夫がなされている。道徳の授業に不慣れな先生や苦手な先生でも別冊ノートを学習カードとして活用し、学習のつみ重ねながら大きくりなままとりて生徒の成長を評価することができる。反面、授業がパターン化してしまうという不安もある。</p>
<p>3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い</p> <p>「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価</p>	(1)	<p>(1)教材の配列や他教科との関連性 学校行事や部活動など生徒に身近な教材、地域や他教科との連携を図った教材が配列され、学校独自の行事等と関連させながら指導計画を作成できるように工夫されている。最終ページなどには内容項目、現代的な課題等との関わり、他教科・領域との関わりが一覧となっているため、教材配列を変更することができるように配慮されている。</p>
	(2)	<p>(2)ユニット的な教材の工夫 いじめにかかわる問題や生命尊重にかかわる問題など、複数の教材を組み合わせるようなユニット的な教材を取り入れ、生徒が多面的・多角的視点から考えられるように工夫している。1時間で完結する授業だけではなく、ねらいとする道徳的価値について様々な場面や様々な立場で考えたり、友と十分に意見を交流したりする授業を構想できる。</p>
	(3)	<p>(3)先人、著名人などの思いにふれ、自らの生き方を考える資料 先人や著名人の姿、新聞記事、漫画の特徴を生かした教材など、多様な教材や資料が配列されている。また、そうした人々の体験や夢を題材にした教材から自己の生き方を見つめ直したり、図・絵を中心に構成された教材から、物事を多面的・多角的に見たり、考えたりして、多様な価値観を受容するように工夫されている。</p>
	(4)	<p>(4)道徳オリエンテーションなどの工夫 年度当初、つまり各学年の冒頭に「道徳科って何を学ぶの?」や「話し合いの手引き」のようなページが位置付けられ、道徳の授業で大切にしたいことや共有したいこと、学年学級に応じて信頼関係や人間関係を醸成したりするような時間であることを位置付けている。</p>
	(5)	<p>(5)挿絵や写真、イラストなど 道徳的諸価値への生徒の興味・関心や、教材内容の状況把握、心情理解につながる親しみやすいさし絵や写真、図が教材に適した大きさと枚数配置されている。また、教材の内容に関連する漫画の一部などを掲載し、導入の際に使用することで、教材への興味・関心を高めながら授業に臨むことができるような工夫もされている。</p>
4 全体的な特色	(1)	<p>①生徒が自ら「考えをもつ」ことへの配慮や工夫、それをもとに「友と意見を交流する」ことを学習の中心に据え、教材の読み取りのみに偏ることなく、発達段階に合わせて道徳的諸価値の自覚を深められる多様な教材で構成されている。 ②道徳科の目標を実現するために、教科書をもとに「教師が主体的に授業づくりができるか」への配慮や工夫がみられる。自分とのかかわりで考える、多面的・多角的に考える発問が複数示されている。</p>